

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	HOPE加古川		公表日 令和6年11月29日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令に遵守したスペースを確保している。	子どもがより安全に取り組みできるように配慮し、活動内容によって部屋を使い分けたり、スペースの確保を工夫している。移動など事故がないように配慮していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令に遵守した人員配置をしている。	子どもの特性や年齢に応じた適切な支援ができるよう人員配置にも配慮、工夫をしている。さらに保護者の要望に応える支援ができるよう人員配置にも気を配っていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		特性に応じた設備、整備を心がけ、子どもの安全面を重視した環境整備、子どもに応じた設備を整えている。	引き続き安全面に配慮し、個別に特性に応じた視覚提示など設備を整えていくようにします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		利用前、利用後は清掃と消毒、換気を行い、空気清浄機も利用している。	引き続き、衛生管理に十分に気を付けていきます。子ども達が気持ちよく利用できるように配慮していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもに寄り添った場所の提供の環境に気を配り、配慮しています。	引き続き、必要に応じて子どもに応じた個別の部屋や場所の配慮をしていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員の共通理解を図り、改善点などを聞き取りを行い、業務の見直し改善があれば行っている。	日ごろから職員同士で話しやすい職場環境づくりを心がけています。また、共有事項の確認や積極的に改善について話し合うようにしています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個人面談等でもご意向を伺ったりする機会が多く設けている。	保護者からのご意向等は真摯に受け止め、内容改善に努めていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		スタッフミーティングや事業所研修などで、個々に気になることなどを聞き取り、風通しが良い職場づくりを心がけています。	業務改善につながるよう職員の意見に常に耳を傾け、より良い事業所を目指します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今のところ第三者による外部評価を行っていないが、定期的に内部監査を行い、改善点については共有し、意識して改善を図っています。	内部監査を行うことでより良い支援、より良いサービスの質の向上を目指していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員の質の向上のために事業所内での研修、オンライン研修、外部研修などにも積極的に参加している。	今後も職員の質の向上を目指し、外部研修に積極的に参加できるように職員の配置に配慮し、社内研修もしっかり行っていきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	支援内容を分かりやすくつたえられるよう工夫しています。	支援プログラム作成中にて、でき次第公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成しているか。	○		保護者との懇談、日々の子どもの様子を通して保護者からのニーズ、子どものニーズや課題を分析し、支援内容を考え計画を作成している。	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題をしっかりと分析し支援会議を行い、計画を作成しています。
	13	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全体で子どもに寄り添った支援が出来るよう共有、共通理解を図り子どもの最善の利益を考慮した検討を行っています。	今後も子どもの最善の利益を考慮した検討、子どもの支援に関わる全ての職員の共通理解をはかり計画を作成します。
	14	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		子どもの様子を確認しながら、職員間で共有を図り、支援会議を通して計画に沿った支援が実施されているかを確認・知ること支援の見直しを行っています。	支援の方向性を確認していくために、日頃から個々の子どもの状況について話し合いの場を設ける事を今後も続けて行きます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者との懇談、日々の子どもの様子を通して保護者からのニーズ、子どものニーズや課題を分析し、支援内容を考え計画を作成している。	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題をしっかりと分析し支援会議を行い、計画を作成しています。
	16	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)には、児童発達支援(放課後等デイサービス)の提供すべき支援の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画に記載しています。	引き続き、丁寧な支援が行われるように子どもの支援に必要な項目の設定、課題を記載していきます。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で個々に合わせた活動プログラムを話し合っており決めています。また、様々な体験が出来るように季節に応じた活動を採り入れるように意識して取り組んでいます。	個々のニーズや課題に合ったプログラムを考え、活動の場を広げていけるように今後も取り組んでいます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々のニーズを採り入れながら、短期間で同じプログラムが重ならないように意識して内容を考え実施しています。	個々のニーズに合わせてながら、定期的に活動内容を見直し活動の幅が広がるよう工夫していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		平日、土曜日に合わせたプログラムを検討し、イベントやお出かけを採り入れたり、それに合わせた支援の時間の変更をするなどの工夫をし、集団支援の時間、個別支援の時間を作り支援を行っています。	子どもや保護者から要望を採り入れながら、より質の高い支援ができるよう工夫をしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ミーティングを通して活動内容や流れを確認しています。変更があった場合はその都度、職員間で共有し、支援がスムーズに行くように取り組んでいます。	職員間での共有により、前回の支援との照らし合わせを確認していきます。また、次の支援に繋がるよう配慮していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援の様子や課題について話し、通所記録、日報の確認も行い、各職員が気付いた点の共有を図るようにしています。	職員間での共有により、支援の方向性を確認しながら個々の子どもの様子の確認、記録した内容の確認など次の支援に繋がるよう努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後に通所記録、日報等、その日の記録の確認を行い、子どもの様子や変化などに気付くように努力しています。また、月に何度か定期的に通所記録、日報の読み返しやチェックを行っています。	日々の報告から支援の検証をし、改善点を話し合います。また、それを継続して実施し努めていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングはもちろんのこと、子どもの状況や様子に合わせ、必要に応じて保護者から話を聞くようにして、計画の見直しを行っています。	お子さんの様子については、相談支援員さんとも連絡を密にとり、積極的に情報を共有し、見直しを行っていきます。
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		活動プログラムに組み合わせて行っています。	引き続きお子さんにとってより良い支援になるよう、寄り添いながら4つの基本活動を組み合わせ支援の実施に努めます。
	25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		身近な些細なことから自分で選択する力を培う支援を行っています。	自立して社会に出るために必要な自己決定力を育てる支援に努めています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援員を中心として児童発達管理責任者、保護者、子どもの様子や状況に精通した職員も積極的に参加し、子どもの状況に応じて子どもに関わる各関係機関の担当者が参加する会議を行っています。	子どもにとって必要な関係機関が集まり連携を図るよう今後も継続していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連携して支援を行う体制を整えています。	お子さん、保護者の困り感などを察知し、いつでも連携がとれる準備を整えていきます。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		加古川市療育センターと必要に応じて意見を聞きに行ったり、連携を図っています。	今後も必要に応じて助言等連携を図ります。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		交流の機会は現時点では実施していませんが、映画を観に行ったり、公共の場へのお出かけなどを実践しています。	今後、外出活動等を通じて出来る限り地域交流の場での活動の機会を積極的に考えていきます。障がいのないお子さんとの活動の機会も今後検討していきます。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送ってこられた時にお子さんの家での様子をお聞きしたり、お迎え時や通所記録などで子どもの状況を伝えたり、必要に応じて電話や懇談などを通して日々共通の理解に意識して努めています。	引き続き保護者と情報共有しながら、信頼関係を築き、保護者との支援に対する共通理解を図っていきます。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニングとして行っていませんが、懇談などで聞いた困り感を家族支援として、家庭で行える支援を保護者に具体的に伝えています。	必要に応じて助言やアドバイス等を行っています。また、ペアレントトレーニング支援についても前向きに考え研修等の参加を検討していきます。
	32	【児童事業所・児童センターのみ】 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
33	【児童事業所・児童センターのみ】 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。					

34	【 <u>児発センターのみ</u> 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
35	【 <u>児発センターのみ</u> 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外研修に参加させているか。				
36	【 <u>児発センターのみ</u> 】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
37	【 <u>放デイのみ</u> 】学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		送迎を行っていない為、行事予定については保護者から確認をしています。	今後も学校行事等をわかり次第保護者から確認していくようにします。
38	【 <u>放デイのみ</u> 】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		気になること等あれば相談支援員さんを通じて情報共有をしています。
39	【 <u>放デイのみ</u> 】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	今までのおこさんは一般就職や進学をしたため、障がい福祉サービス事業所への移行者がいませんでした。	今後は障がい福祉サービス事業所等へ移行があれば、支援内容等の情報を提供し、協力を努めていきます。
40	【 <u>放デイのみ</u> 】(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会主催の研修等にできるだけ参加するようにしています。	今後も積極的に自立支援協議会等の研修などに参加していきます。
41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者と一緒に重要事項説明書の読み合わせを行っています。また、不明な点が出てきた場合はその都度丁寧に説明を行っています。	保護者に安心して事業所を利用してもらえるように引き続き丁寧に説明をしていきます。
42	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お子さんからの聞き取り、保護者からの聞き取りを行いしっかりとアセスメントを取るよう努めています。	お子さんのニーズを聞き取り、保護者からのニーズの聞き取りをしっかりと行い、子どもの最善の利益の優先を考慮していきます。
43	「児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		アセスメントに基づいて立てた支援内容を計画書を提示しながら丁寧に説明を行っています。	計画書を提示しながらの説明はもちろんのこと、支援内容について質問があった際には細かく丁寧に説明をしていきます。
44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な聞き取りを行い、相談依頼があった場合はできる限り速やかに対応しています。内容によっては必要に応じて関係機関と連絡を取り、話し合いの場を設けるようにしています。	引き続き、保護者からの悩み相談や、情報共有をしながら信頼関係を築き、保護者との共通理解を図っていきます。
45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		毎年保護者会を開催しており、保護者同士が話し合い、共感したりする場を設けています。	保護者会の機会だけでなく、日頃から保護者同士連携がとれるようイベント等の参加に声掛けをしていきます。
46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約時に苦情対応体制について説明を行っています。苦情、要望があった場合には迅速に調査を行い、適切に対応するようにしています。	引き続き、日ごろから保護者が意見、要望を出しやすいように困り感などがなければ声をかけていきます。引き続き、信頼関係を築いていくように努めていきます。
47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月会報を発行し、活動内容や行事予定を発信しています。またホームページのブログにも活動報告をしています。	今後も引き続き、プログラムや行事予定、保護者が知りたい情報などを発信していけるように努めます。
48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に保護者には秘密保持についての説明を行い、職員には個人情報規定についての共有、研修を行っています。また、個人情報の取り扱いについての説明を行い、必ず同意を得るようにしています。	引き続き個人情報の取り扱い、管理には十分注意を払っていきます。
49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の特性を十分に理解し配慮しながら行っています。絵カードやタイマーを用いてスムーズに意思の疎通が図れるよう子どもが理解しやすい工夫をしています。保護者に対しても必要な配慮をしています。	必要に応じて個々の特性に応じた対応をできる限り行っていくように努めます。
50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の行事などにも積極的に参加させて頂き、子ども達も安心して引き入れてもらえる関係性を今後も維持していきます。	今後も地域活動に積極的に参加し、開かれた事業所運営に努めていきます。
51	【 <u>放デイのみ</u> 】家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送ってこられた時にお子さんの家での様子をお聞きしたり、お迎え時や通所記録などで子どもの状況を伝えたり、必要に応じて電話や懇談などを通して日々共通の理解に意識して努めている。	引き続き保護者と情報共有しながら、信頼関係を築き、保護者との支援に対する共通理解を図っていきます。

非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年度初めには研修を行い、職員に対して各種マニュアルの周知を図っています。また、各種マニュアルについては定期的に見直しを行っています。保護者には非常時の避難について、引き渡しカードを配布、記入してもらい非常時に備え保管しています。避難訓練も定期的に行っています。	今後も定期的にマニュアルの見直し、必要に応じて修正も行っていきます。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		火災と地震を想定した避難訓練を年2回実施しています。また、BCP発動に備え、必要な訓練や見直し検証を行っています。	日ごろからの防災意識を高め、職員にも危機管理や防災、避難に対する知識等の研修を引き続き行っていきます。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に服薬、持病についての聞き取りを行い確認し対応しています。	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーについての聞き取りと対応等を確認をし、その都度対応しています。利用者に応じたアレルギー反応の症状を全職員で周知、確認し適切に対応をしています。	より適切な対応が出来るように必要に応じて医師と連携をとっていけるようにします。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、訓練、研修等、安全管理を徹底しています。	安全管理を行い、必要に応じて安全計画の見直し等図っていきます。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の引き渡しカードの作成により災害時に家族と連携がとれるようにしています。普段は会報やホームページ等で取組内容を周知しています。	お子さんの安全確保や家族との連携、安全計画に基づく取組内容など変更がある場合にも必ず会報等で周知していきます。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった時に職員間で共有し、ヒヤリハットの報告書を作成しています。また、その内容について話し合い周知し、共有を図っています。	ヒヤリハットにつながる子どもの行動などに注意し、ヒヤリハットが起こりやすい場所、時間帯などを共有し検討、対策を考えて子ども達が安全に過ごせるように努めています。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修にも積極的に参加し、学んだ内容を他の職員に共有しています。子どもや職員との日頃の関わり方についても適切かどうか、随時話し合っています。	できる限りどの職員にも研修に参加できる機会を確保できるように努めています。
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束をやむを得ず行う可能性のあるお子さんの利用は有りません。	身体拘束適正化委員会の継続、身体拘束についての適切な理解のため、職員間で研修することを継続していきます。	